



南アフリカホルダーズビーチのケープペンギン

新入植者

雄国五郎

ペンギン
たちはそ
れぞれ御
影石を背
負ってい
た
六年前に
津波に乗
ってこ
の入り江
へやって
きた
岩間の
乾いた白
砂だけの
なかには

虫一匹見えやあしない
アシカの住みかであった険しい岩穴が砂で埋まった
ペンギンたちは 新しい入植者である

いったい生き物とは何だろう 自然現象とは何だろ
う 輪廻とはなんだろう
しかし 確実に変わっているのだ 石ころ一つ同じ
ものはありあしない
あなたの息づかい わたしの立ち振る舞いに どん
な意味があるのだろう
ペンギンたちに混じって 長くて短い日照を 浴び
ている
それだけで十分だ

いま 一瞬のうちに 天地がひっくりかえって
うねりの大きな 海面となったとしても どれほど
の驚きがあるだろう

フジちゃんは去った



アフリカ南部のザンベジ河畔サバナ

雄国五郎

青い自動車のフロ
ントガラス一杯に
翼を広げて 羽ば
たきをした
するつと笑顔が消
えた
運転の智クンが窓
を閉めた
フジちゃんはどこ
へ行ったのだろうか
赤い煉瓦を飛び越
え
干し昆布をまたぎ
花粉で煙る谷間を
通り過ぎる
海に注ぐ河には

カバが浮き沈みしている
象がたむろするサバナに近づく
発情期の象は 丸太ん棒を振り続けて
右往左往する
足元の草場が崩れそうだ
しかし ここでは
爆音もなければ 怒号も響かない
子象のなき声が 昼のチャイムのようにだ
それから一ヶ月経った
フジちゃんの話はわからない
電信器具を持たない人だから
青い車の智クン？
わたしとは無関係だ
草場に緑のボックスがあつて
「コウシュウ」の表示が
伝わってくるだろうか